

- “You”はどうしてふくはくへ？ ..... 1
- 2024年の活動報告 ..... 2
- 2024年の活動報告とお知らせ ..... 3
- 2025年 展示のご案内 ..... 4

# ふくはく

## Vol.38 だより

2025.4.1

編集・発行 文化学園服飾博物館

“You”はどうしてふくはくへ？

### 資料の「来歴」を知ろう

服飾博物館では多くの資料を受け入れています。それらがどこからどうして博物館にきたのか、ここにたどりつくまでどんな「人生」を歩んできたのか…。その情報を知ることで、資料への理解と活用の機会が広がります。ここでは、これまでに受け入れた資料の中から「来歴」に注目して紹介します。



### 民族衣装

チェコの民族衣装。日本人研究者が、1970年の大阪万博に参加したチェコスロバキア(当時)の関係者から譲り受けた。この衣装は万博開会式で使用されたことが写真からも分かる。

大阪万博開会式の様子(1970年)  
松木洋子提供

### EXPO '70

大阪万博(1970年)の会場案内係の夏用制服(左)。デザインを手掛けた松木洋子からの寄贈。製品化される前の試作品(右)もあり、合理的観点からデザイン変更を行ったことが分かる。

### 十二単

旧皇族の賀陽敏子(1903-95)の戦前の十二単。昭和26年頃に受け入れた。昭和30年11月に敏子が来校した際の学内報には〈賀陽宮家お払下げの十二単の衣装を前にし「二度着たことがありますが随分重いものです」と感慨深げに語られた\*〉と本人の談が記される。\*『婦人文化新聞』(昭和30年11月10日)



### 大礼服

渋沢栄一(1840-1931)の明治期の大礼服とトランク。孫である渋沢敬三が推進した「日本実業史博物館」に、服飾博物館の初代館長、遠藤武(在任1979-86)が関わっていたことから、当館に収蔵された。



### 明治期のドレス

明治20年頃の「鹿鳴館」スタイルのドレスで、東洋汽船創始者の塚原周造夫人が着たもの。着用者の孫である女優の賀原夏子(1921-91)からの寄贈。賀原は昭和25-27年頃に文化服装学院学友会(演劇班)の講師をしており、その縁からの寄贈と考えられる。

### 朝鮮王朝の衣装

徳惠翁主(1912-89)所用の儀礼服で、昭和31年に李家から寄贈された。その2か月前の昭和30年11月、李方子が当学園の文化祭に賀陽敏子らと訪れている。敏子の寄贈した十二単などの展示を見て、「私も服飾関係にタッチしております関係上、あちこちと見て歩きますが、こちらはさすがという感じです\*」と感想を述べている。この来校がきっかけで寄贈に至ったと考えられる。



### 民族衣装

「多摩東京移管100周年事業」(1993年)の一環として行われた「ファーマーズ・ファッショントン」のために主催者が収集したインドやラオス、マリなど6か国、約80体分の民族衣装。イベント終了後に当館に寄贈された。

## 【オモシロイフク大図鑑】 3月11日～6月22日



本展では約30か国のさまざまな衣服や付属品などを「ながい」「おおきい」「おもい」「まるい」「たかい」の5章に分けて紹介しました。フルムそのものの持つ面白さばかりではなく、どうしてそのような形状になったのか、その意味も探り、気候への適応や外敵からの防御など、それぞれの民族が培ってきた暮らしの知恵や文化が表れていることが分かりました。来館者からは「見たこともない形の服は興味深くワクワクした」「楽しめて勉強になった」などといった感想が寄せられました。



## 【世界のビーズ】 7月19日～11月4日



本展は「世界の民族とビーズ」「ファッショントビーズ」の二部構成とし、出土品のビーズや交易品として珍重された「トンボ玉」にはじまり、象徴的な意味を持つアジアやアフリカの各民族の衣服や装身具、ヨーロッパのきらびやかなビーズ刺繍のドレスなど、約40か国、200点あまりの多種多様なビーズを紹介しました。また特別出品として、オートクチュールのビーズ刺繡を手掛ける田川啓二氏の作品も展示しました。展覧会はNHKの「すてきにハンドメイド」をはじめ、新聞などでも紹介され、多くの来館者を迎えることができました。



『世界のビーズ図鑑』  
ラトルス刊 ￥3,278

## 【あつまれ！どうぶつの模様】 12月5日～2025年3月5日



鳥や獣などの動物をモチーフとした模様を衣服に取り入れることは、さまざまな地域で見られます。本展では、動物の模様を「空の動物」「陸の動物」「水の動物」「空想の動物」「動物大集合！」の5つにカテゴリに分け、約40か国、160点あまりの衣服や装身具を紹介しました。動物模様には人々のさまざまな願いや思いが込められ、本来あるべき人と動物が共生する豊かな環境を改めて考えさせられました。会期中には「スカジャン」刺繡職人の山上大輔氏が、横振りミシンによる動物模様の刺繡の実演を行いました。



スカジャン【横振りミシン】の実演

### ■「スケッチ・デー」を開催

当館では民族衣装やドレスなどをスケッチする来館者が多くみられます。スケッチ・デーは、スケッチをする人が思う存分楽しめる取り組みです。当日は展示室のあちらこちらにイスが配置され、また当日のみスケッチ目的でのタブレットの使用も許可されます。

実際に展示品をよく見ながら手を動かしてスケッチすることで、これまで意識しないで見ていた細かな部分にも気付くことができ、展示品への理解も深まります。スケッチした「作品」は、各自のSNSでもアップされ、楽しみながら展示をご覧いただけたようです。



### ■「トワイライト・ミュージアム」を開催

12月13日、「トワイライト・ミュージアム～ドレスをよく見て知る世界～」を開催しました。このイベントは、閉館後の展示室で19世紀のドレスを熟観する人数限定の催しです。参加者にはまず展覧会をご覧いただき、その後、朝日真先生（文化服装学院教授／文化学園服飾博物館特任研究員）の解説を聞きながら、机上に広げたドレスを間近に囲み、縫製の方法やカッティングなど、ドレスの細かな部分に注目して見学しました。

イベントで熟観した  
1860年代のドレス



### ■ 文化学園大学との連携

文化学園大学の教育や授業の中で服飾博物館を活用いただくとともに、多くの在学生に博物館を利用していただくための取り組みを行っています。

#### 【在学生向けショートムービーの製作】



「ミュージアム de すてきな空きコマ時間」

企画：文化学園大学 造形学部 デザイン・造形学科 メディア映像クリエイションコース 3年  
制作：文化学園大学大学院 生活環境学研究科 生活環境学専攻 デザイン・造形専修 1年

#### 【展覧会 ジュニアガイドの製作】



「あつまれ！どうぶつの模様」展 ジュニアガイド

企画：文化学園大学 博物館学研究室

制作：文化学園大学 造形学部 デザイン・造形学科 4年 鶴岡翠 川畑萌泉 加古翔悟

### ■ 外部館への展示協力

#### 【ベル・エポック－美しき時代】

山梨県立美術館	4月20日～6月16日
栃木県立美術館	7月13日～9月8日
パナソニック汐留美術館	10月5日～12月15日



栃木県立美術館



パナソニック汐留美術館

#### 【思い出のチマ・チョゴリ】

横浜ユーラシア文化館	
10月4日～2025年1月5日	



#### 入館料改定及び土曜日の開館時間変更のお知らせ

2025年4月1日より入館料改定及び土曜日の開館時間変更をいたします。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

##### 【料 金】

一般…1,000円 学生…500円 小学生以下無料

##### 【土曜日の開館時間】

10:00～15:00（最終入館は14:30）

リピーター割引制度は廃止します。

ぐるっとバスはこれまでと同じ無料入場となります。\*使用できない期間があります。

## 2025年度 展示のご案内 ● Exhibition Schedule

\*は通常とは異なる開館日、開館時間

4月3日(木)～6月21日(土)

\* 金=4/25、6/13は19:00まで開館  
土=4/19、5/31、6/14は16:30まで開館  
日=4/6、5/25は15:00、6/15は16:30まで開館

### どうしてなんだか似てる服

Clothes with Similar Shapes, Clothes with Similar Patterns

世界のさまざまな地域の衣服を見ると、地図上では離れた地域であるにもかかわらず、文化や国を超えて形や模様が似ているものがいくつか見られます。本展では服飾博物館の所蔵品の中から約30か国の服や染織品を選び、「かたちが似てる」、「もようが似てる」に分けて紹介します。それらを互いに並べて見比べることで、似ていることに何か共通点や理由があるのか、互いの地域の影響があるのかなど、人々が衣服に込めた意味や思いを探っていきます。

When we look at the clothing from various regions of the world, we can find some similarities in shapes and patterns, even between regions that are geographically distant from each other, transcending cultures and countries.

In this exhibition, we have selected clothing and textiles from around 30 countries included in our museum's collection, organizing them into categories of "Similar Shapes" and "Similar Patterns."

【かたちが似てる】  
女性用衣装  
パキスタン  
1970-80年代



女性用衣装  
中国 20世紀初め



【もようが似てる】  
コート  
ウズベキスタン  
20世紀前半



【かたちが似てる】  
カバブ  
日本 19世紀前半



着物  
日本 1950年頃



ドレス  
パレスチナ地域  
1925年頃

7月16日(水)～9月20日(土)

### 戦後80年企画 衣服が語る戦争

War Seen Through the Lens of Clothing

今年は第二次世界大戦が終結してから80年の節目の年です。日清、日露戦争下の明治時代後期から昭和20年の終戦まで、約50年の間に起こった戦況や暮らしの変化は、人々の衣生活や着ることの意識を大きく変えてきました。本展では、戦勝への期待の中で作られた着物、物資不足の節約生活の中で着られたもんぺや国民服、同時期の欧米のドレスやファッション誌、被服協会が調査のために収集したアジア各地の民族衣装などを展示し、戦争が衣服や人々の生活に及ぼした影響を考えます。また終戦後の装いや、平和への願いが込められた衣服なども紹介します。 【8月2日(土) 13:00～ オンライン講演会】

This exhibition showcases a variety of garments to explore the impact of war on clothing and people's lives. Items on display include kimonos created amid the anticipation of victory, monpe (women's work pants) and kokumin-fuku (men's national uniforms) worn during the frugal wartime years of material shortages, Western dresses and fashion magazines from the same period, and traditional clothing from various parts of Asia collected by Japan's Clothing Association for research purposes.

\* 夏期休館=8/8～17

金=7/18、9/12は19:00まで開館  
土=7/26、8/23、9/13は16:30まで開館  
日=7/27は16:30、8/24は15:00まで開館

ミリタリー風スーツ  
アメリカ  
1940年代後半



供出を呼びかける  
病のスカーフ  
イギリス  
1944年頃



「戦争柄」の着物  
日本 昭和15年



艦船柄の布団地  
日本 明治38年頃



国民服  
日本  
昭和15-20年



活動衣(もんぺ)  
日本 昭和17-20年



“PEACE”と  
鳩柄のドレス  
イタリア モスキーノ  
1997年

11月22日(土)～12月4日(木)

\* 11/24は開館

2025 International Fashion Art Exhibition, FCA

### 韓国ファッショントンの共鳴 ～伝統から革新へ～

Resonance of K-Fashion: from Tradition to Innovation

韓国ファッショントン文化協会は、30年以上にわたり内外でファッショントンアート展を開催してきました。本展では、韓国の伝統、伝統を通じた文化の融合、そして未来につながる創造的な衣装を展示し、日本との文化交流を深め、より深い芸術的・文化的対話の促進を目指します。

The Korea Fashion & Culture Association, which has been hosting fashion art exhibitions in Korea and abroad for over 30 years, aims to create a meaningful cultural exchange with Japan through this exhibition. By showcasing creative fashion pieces inspired by Korean traditions, cultural crossover through tradition, and new connections for the future, this exhibition seeks to foster deeper artistic and cultural dialogue.

Tradition  
Trace  
Cultural Crossover  
within Tradition  
New Connection



主 催: 韓国ファッショントン文化協会  
<http://www.fashionca.co.kr/>



The Korea Fashion & Culture Association

◆ 利用案内 ◆ 上記予定は変更・更新される場合があります。最新の情報はホームページをご確認下さい。

### 利用案内

◆ 開館時間 月～金 10:00～16:30 土 10:00～15:00

(各展示会期中2回程度、19:00まで開館 入館は閉館の30分前まで)

◆ 休館日 日曜日、祝日、夏期・年末年始、展示替の期間

◆ 入館料 一般 1,000円・学生 500円・小学生以下無料

\*20名以上は団体割引あり、障がい者とその付添者1名は無料

◆ 交 通 JR/京王線/小田急線 新宿駅(南口)より徒歩7分

都営地下鉄 新宿線/大江戸線 新宿駅(新都心口)より徒歩4分



### 文化学園服飾博物館

〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7

TEL. 03-3299-2387

<https://museum.bunka.ac.jp>

学校法人 文化学園

文化学園大学/文化ファッショントン大学/文化服装学院/文化外語専門学校/文化出版局/文化学園服飾博物館

